



26. サケ(シロザケ) *Oncorhynchus keta* (Walbaum) 図版 8、9

英名 chum salmon, dog salmon

露名 <sup>ケタ</sup> keta

地方名(北海道) アキサケ、アキアジ、トキシラズ、トキ、トキザケ、  
ギンケ、ブナ、ブナケ、ブナザケ、ホッチャレ、メジカ、ケイジ、  
シロサケ、オオスケ (噴火湾の一部)

漢字 <sup>まけ</sup> 鮭、<sup>しろざけ</sup> 白鮭、<sup>あきあじ</sup> 秋味、<sup>ときしらず</sup> 時不知、<sup>ぎんけ</sup> 銀毛、<sup>めじか</sup> 目近、<sup>けいじ</sup> 鮭兒、<sup>おおすけ</sup> 大介

アイヌ語名 カムイチェブ、シベ、イベ

**【形態】** サケ属\*のなかでは、比較的体高\*が低く、尾柄\*が細い。海洋生活期には、体の背部は青黒色、体側は銀色、腹部は白色。背部やひれに黒点はない。性成熟\*に伴い雄の吻\*は伸び、上あごの先端が下方に曲がり、両あごの歯が強くなる二次性徴\*を示す。体は黒ずみ、体側に赤、黄、紫色などが混じる雲状斑\*が表れる。雌もほぼ同様に変わるが、雄ほど著しくない。尾叉長\*は最大で80cmを超える。満4歳の成熟\*魚は多くが60~75cm、体重2.5~5kg。尾叉長4~5cmの稚魚\*は、体側に6~14個のパーマーク\*を持つ。

**【生態】** 北太平洋と北極海の一部に分布。遡上\*する河川は、アジア側は朝鮮半島東部からシベリアのレナ川、北米側はカリフォルニア州のサクラメント川からカナダのマッケンジー川まで。日本国内では主に利根川以北と山口県以北の川に上るが、数が多いのは東北と北海道。

サケは、集団遺伝学\*的研究によるとアジアと北米の地域集団に大きく分け

られ、前者は日本とロシアの集団に分かれる。日本には北海道のそれぞれオホーツク海北部、根室海峡を含むオホーツク海南部、えりも岬以東太平洋、えりも岬以西太平洋、日本海に注ぐ河川の5集団と、本州の太平洋側、日本海側の2集団が認められている。

日本起源のサケは、海で冬を数回過ごし2～8年魚\*となって、産卵のため日本に帰る。これらは産卵する年の7～9月にアリューシャン列島周辺やベーリング海からカムチャツカ半島東方沖を経て千島列島に沿って南下し、早いものは8月末には日本沿岸に到達する。

これらの魚は1970年代までは4年魚が全体の50～70%、3年魚は20～30%、5年魚は10～20%であった。1980年代に入り回帰尾数が増加すると6～8年魚が目立ち始め、1990年代に入ると4年魚(45～60%)に次いで5年魚(25～40%)が多くなり、3年魚が10%以下になるという高齢化、そして魚体の小型化の現象が認められた。このため北太平洋の環境収容量\*、環境変動などとの関連が検討された。しかし1990年代後半から資源量が徐々に減るとともに、小型化や高齢化は緩和する方向にある。

母川\*への遡上は、夜間や増水時に活発。産卵期は9～翌2月と幅広いが、盛期は北海道でおおむね10月、えりも岬以西の太平洋側では10～11月。産卵場所は河口近くから数十km上流の範囲に及び、地下水がわき出る砂れき\*底が適している。卵の直径は7～8mm。雌が産卵床\*を掘り、卵を産むとともに雄が放精する。雌はひと腹2,000～3,500粒の卵を1～3カ所に産み、最後に埋めた産卵床を1週間ほど守るが、やがて雄と同様にその生涯を閉じる。

受精からふ化までは約2カ月。ふ化仔魚\*は全長\*2cmあまり、体重0.2gで卵黄のう\*を持つ。ふ化後2カ月ほどで卵黄を吸収し終え、尾叉長3.5cm、体重0.4gほどの稚魚\*となって川底から抜け出て泳ぎ出す。稚魚は小さな水生昆虫\*を食べながら川を下り、数日から数週間で海へ出る。初め岸近くで生活し7cmほどになると、6～7月の沿岸水温が15℃に達する前に沖合域へと移動する。このころの主な餌はカイアシ類\*やヨコエビ類\*。

日本海側の河川から降海\*した幼魚\*は日本海を北上、太平洋側の河川からの幼魚は太平洋を東進して、春から初夏にかけてオホーツク海へ入る。その後、幼魚の多くは1年目の夏から晩秋をオホーツク海で過ごし、水温の低下に伴い北太平洋へと移動し、その西側海域で冬を迎える。

冬の間、幼魚は海流などにより東へ移動し、2年目の夏にはベーリング海へと移動して、3年魚以上のサケと合流する。その後は夏にベーリング海とその周辺に分布し、秋にアラスカ湾付近の北東太平洋に南下して冬を過ごすという生活を繰り返す。